

KWANSEI GAKUIN SCHOOL OF THEOLOGY

 関西学院大学

神学部報

No.120 2022.11

芸術の秋です。後援会の支援を受けたチャペルコンサートは2年目となりました。6/8には新進気鋭のバイオリニスト伊藤実玲氏とピアノの佐竹裕介氏、7/6には歌とリュートに笠原雅仁氏、ヴィオラ・ダ・ガンバに野田祐子氏、リコーダーとお話に小栗献先生をお迎えしました。11/2には大阪音楽大学で学ぶバイオリンの谷口響子氏、ピアノの矢田将人氏をお招きしました。音楽を通して神の美に触れ、豊かな時間を過ごすことができました。



Instagram



発行 関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200 FAX (0798) 51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook



夏期実習報告 2022

夏期派遣神学生

福留 洋平 【大学院】キリスト教伝道者コース

＜期間＞8月3日(水)～9月2日(金)

＜場所＞日本基督教団 広島流川教会



8月3日(水)から9月2日(金)までの1か月間、私は広島府中教会と広島流川教会で夏期派遣神学生として実習の機会をいただきました。私が両教会を訪問するのは、2009年度に実施された関西学院聖歌隊による夏の演奏旅行以来です。実習期間中は広島府中教会の集会室に宿泊し、広島流川教会の向井希夫牧師にご指導いただきました。

特に、8月6日の原爆の日を初めて広島で、広島の皆さんと共に迎えたことは大きな経験となりました。各地の慰霊行事に参加し、被爆した教会の歴史と資料に文字通り直に触れる中で、現代における戦争と平和、そして歴史への認識を、より身近に実感する機会になったと思います。また、広島を訪問されていた小田部ゼミのフィールドワークや、地域の方が実施している炊き出しや夜回りにも同行することができました。途中、初めて教会で説教をすることについて悩むこともありましたが、結果的に説教を通じて多くの方と語り合う機会が与えられ、本当に嬉しい限りでした。

今回、西中国教区の各地を案内し、そして指導して下さった向井先生とご家族をはじめ、各地の教会の先生方、教会の皆さん、一緒に遊んでくれた幼稚園、小・中学校の皆さん、小田部ゼミのお二人、ここに書ききれない多くの人と、与えられた恵みに感謝いたします。夏期派遣の経験を糧に、神学部での学びと献身の道を、更に邁進して参ります。

平松 麻那 【大学院】キリスト教伝道者コース

＜期間＞8月8日(月)～9月20日(火)

＜場所＞日本基督教団 川内教会



私は、8月8日(月)から9月20日(火)の期間、鹿児島県薩摩川内市にある川内教会に夏期派遣神学生としてお世話になりました。関西学院大学神学部の同窓である日下部遣志先生と戸田奈都子先生、そして川内教会の皆様、のぞみ幼稚園の先生方、他にも多くの方々に迎え入れられて学びの時

を持つことができましたことを感謝します。実習中、説教や証を行う機会を与えられました。また、遠方の信徒の方への訪問やCSのナイトキャンプなど、様々な教会行事に関わらせていただきました。

川内教会に併設するのぞみ幼稚園の働きにも関わらせていただきました。幼稚園行事やクラス礼拝でのメッセージ、年長組のお泊り保育を通して、キリスト教保育の現場を学びました。子どもたちと遊んでいる時間が一番幸せだと思う程に、幼稚園での実習時間は自分にとって平穏なものでした。そしてその幼稚園が先生方と川内教会の人々によって守られている場だからなのだということが知ることができました。

この実習を通じ、人と関わるのが苦手な自分が多くの人と関わる現場に遣わされたことは、とても意味のあるものであったと思います。自分にはできないことが多くあり、これからの歩みを進めるための課題が多くあることに気づかされました。そして、教会というものは、神と人が共に生きる場であるということを実感し、本当に強く感じました。

大仁田 空 【大学院】キリスト教伝道者コース

＜期間＞8月24日(水)～9月19日(月)

＜場所＞日本基督教団 小牧教会

日本基督教団 華陽教会

日本基督教団 名古屋中央教会



8月24日(水)から9月19日(月)の夏期派遣では、愛知県の小牧教会、岐阜県の華陽教会、愛知県の名古屋中央教会の計3教会で、礼拝奉仕などの実習を行わせていただきました。私自身が生まれ育った小牧教会で主日説教を行うことができたことにはとりわけ感謝を覚えました。牧師先生や信徒の方々との対話

を通して、教会の運営を現場からより実践的に学ぶことができました。華陽教会では、工夫されたYouTubeでの礼拝配信が特に印象的でした。例えば、サムネイルを作ることで動画をわかりやすく表示し、様々な編集作業を行い、子どものための動画も配信していました。牧会には自分が思いもよらない角度からのアプローチが可能であり、どこまでも工夫していくことができると気づかされました。名古屋中央教会では、祈祷会や聖書研究会やキャンプなど様々な場で話す機会に恵まれました。思うように教会員の方々の質問に答えられなかったなどの反省点もありますが、貴重な経験でした。それぞれの教会で様々な牧会の実践を体験させていただくことで、多くの発見があり、牧会への新しい視点が与えられました。今回学んだことを将来の牧会にどう活かせるのかを考え続けていきたいです。温かく迎えて下さった3教会の皆様々に心から感謝いたします。

Mission in Dialogue 報告

キリスト教思想・文化コース2年 平尾 郁



Mission in Dialogue Bを受講し、韓国の監理教神学大学の学生たちと交流しました。コロナ禍のためオンラインでの交流でしたが、

日本と韓国の信仰の在り方の違いを具体的に感じる機会となりました。韓国のプロテスタントには保守的信仰が多く、主日を厳守することなどが大切にされています。例えば、コロナ禍で韓国政府から礼拝をオンラインに切替えるよう指示された当時は教会の反発が大きく、「主日礼拝を守ることは、自分たちの体を守ることだ!」と対面での礼拝を強行した教会もあったそうです。私の通う教会では自粛してオンライン礼拝に切替えましたが、妥当だと感じていただけに、韓国の教会の熱量を感じました。また、韓国の教会から日本で宣教をする際のポイントを尋ねられる場面もあり、彼らの視点が海外宣教にも向けられていることに驚きました。背景には両国の国民性の違いや、キリスト教人口が韓国では約20%に対して、日本は約1%未満という事情などがあるとみられます。日本の教会を俯瞰的に見るためにも、他国の信仰の様子を知ることが重要だと感じました。

キリスト教思想・文化コース4年 帯山 陸

この度私は、夏季休暇の間に8月4日(木)から8月12日(金)の日程で行われたMission in Dialogue Bで韓国のキリスト教について学びました。中道基夫先生からこの講習を受けてみないかとご紹介いただき、私自身も韓国に興味があったので受講しました。鶴橋でのフィールドワークでは在日大韓基督教会をいくつか訪問し、日本と韓国のキリスト教の歴史を丁寧に指導いただきました。長い歴史の中で日韓の教会同士が今もなお良好な関係を築いているのは過去の教会関係者の方々のお陰ではないかと深く感じました。昼食時には韓国料理の石焼ビビンバを堪能しました。またZoomを使ってオンライン上で韓国にいる監理教神学大学の学生たちと交流することができ、現地のキリスト教の詳しい情報や部活動のことなどをざっくばらんに聞くことができました。6日間という短い時間でしたが貴重な体験をさせていただきました。



学生活動報告 ～オープンキャンパススタッフとしての活動～

キリスト教思想・文化コース3年 藤井 美祈

私は、オープンキャンパスを運営するサークル、KG CLUBの副代表として活動をしています。オープンキャンパスでは、普段関わることのない高校生や保護者の皆さんと交流できるため、サークルの活動を通して人との繋がりの大切さを学びました。特に印象に残っているのが、今年の3月に行われたオープンキャンパスでの出来事です。オープンキャンパスでは学生企画として、「受験」「学部」「学生生活」という3つのテーマで、高校生向けに講演をしています。当時、在籍している神学部の学生が私1人だったため、この講演で初めて私が神学部を紹介しました。高校生の反応が不安で

したが、講演後に何組もの高校生と保護者が私の元に来られて、「神学部の印象が変わりました」「神学部を志望したい」という声を直接いただき、心の底から講演をして良かったと感じました。そして、今年の8月のオープンキャンパスで、私の事を覚えてくださった高校生とお母様から再び声をかけていただきました。これらことから、出会いと繋がりの大切さを感じることができました。



新入生の声

キリスト教伝道者コース1年 古澤 如雲



神学部入学後の半年余り、神学の専門的なことをはじめから学ぶというよりは、キリスト教全般にわたり、基礎的な土台のための学びをしています。聖書、歴史、思想をはじめ、他宗教との共生など、現代のキリスト教のあり方や思想も学び、キリスト教を多方面から見つめる時間となっています。先生方もいろいろな興味を引き出してくださり、ときに想像もしていない新しい視点が与えられることもあり、楽しいです。その一つひとつが刺激となり、考えるきっかけとなっています。神学部での出会いや交わりを通して、学問を深めることはもちろん、自分自身も人格的に成長していきたいと思っています。

キリスト教思想・文化コース1年 山口 真奈



私は入学前までキリスト教と関わる機会がありませんでしたが、神学部にも所属したことで、これまで知らなかった分野を学ぶことができています。入学当初はキリスト教について何も知らない状態で、とても不安がありましたが、授業の中で先生方が分かりやすく教えてくださったため、興味をもって取り組むことができました。

神学部ではキリスト教を中心に様々な価値観に触れることができ、自分の価値観との違いなどを知ることで、視野を広げる機会となり、とても有意義な学生生活を送っています。これからは神学部で新たに学ぶ内容に興味をもち、学ぶこと自体を楽しんでいきたいと思っています。

学生の声 神学部で学ぶ

キリスト教思想・文化コース3年 須藤 啓介



Q1. 神学部に入學したきっかけは？

私は高校生の時に倫理の資料集を読んで神学を知りました。当時、私は生きていくということが苦しいと強く感じるようになり、その悩みを解決したいという思いから倫理の資料集を読みふけていました。その中でも特に放蕩息子の帰還の解説に書いてあった「無差別に注がれる神の愛」という概念に興味を持ちました。そうしたキリスト教の考えやその他の哲学に触れる中で、大学では人生を生きる上で自分を支えてくれるような思想を学びたいと思うようになりました。そして、もしかしたら神学が自分の人生を支えてくれる一つの考え方になるかもしれないと思い神学部に入りました。

Q2. 現在神学部で興味を持って学んでいることは？

「キリスト教と文学」という授業で学んだ、国を越えたアイデンティティの問題、そして「キリスト教と世界の諸地域」という授業で学んだドイツの教会にあるユダヤ人を揶揄する彫像「ユーデンザウ」の撤去問題などはとても興味深かったです。これらの授業からは一つの問題に対して様々な視点から考えるということを学びました。ゼミでは、私がかつて住んでいた香港で起きた民主化運動とその弾圧について様々な視点から考えていきたいと思っています。また、今まで学んできた神学の知識をそのような国際的な問題にどう生かされるかということについても興味があります。

Q3. 将来の夢や目標は何ですか？

現段階では映画や映像に携わる仕事に興味があります。私は自主映画を製作するサークルで映像制作をしているのですが、歴史に記されることのない人々の苦しみといった心情をリアルに描き出すという点で映像は有効な媒体であると考えています。特に映画はおよそ1時間から2時間という時間の中で俳優の演技や様々な演出を通してそうした人々の生活や人生を表現します。映画を通して、私たちはそこで描かれている人間がどのような境遇にあったのか、どう感じていたのかなどをより深く理解できます。時代が揺れ動いている今だからこそ、大きな視点では見過ごされがちな人々の心情を映像として表現することが重要であると私は思います。

Q4. 神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

関西学院大学神学部はクリスチャンだけでなく、様々な背景を持つ人々に門が開かれています。私自身も神学部に入ってからキリスト教を一から知っていきました。神学部ではクリスチャンもそうでない人も自分の意見や考えを発信し、その中で多様な考え方を学びます。私は神学部に入って自分の世界に対する視野が広がりました。神学部に興味はあってもキリスト教や神学がどういうものなのかわからないという方でも、学びたいという気持ちさえあれば心配はいりません。皆さんが思っている以上に神学は広く、そして深いです。キリスト教、神学に少しでも興味があるという方は関西学院大学神学部の門をたたいてみてはいかがでしょうか。

ユースキャンプ報告

橋本 祐樹 准教授



第39回関学ユースキャンプが8月6日(土)に西宮上ヶ原キャンパスを会場に実施されました。COVID-19の第7波が流行する最中でしたが、感染対策の実施のもと、対面をメインに、Zoomを使った同時双方向形式も併用しつつ、無事に終えることができました。昨年に引き続いて宿泊を伴わない1日だけの実施でしたが、参加者6名(うちZoom参加1名)、スタッフ9名(うち神学生スタッフ1名)で総数15名となりました。講師として美濃部信先生(甲子園二葉教会牧師)をお迎えしました。

キャンプ主題「今がすべてではない」のもと、プログラムは今回も祈りと自己紹介ゲームから始まり、美濃部先生の講演へと進みました。先生ご自身に与えられてきた出会いと経験を分かち合いながら、次の聖書の言葉、「何事にも時があり天の下の出来事にはすべて定められた時がある」(コヘレトの言葉3:1)を深く受け止める機会となりました。昼食後には、スタッフがZoom接続したスマートフォンで学内を映しながらキャンパスツアーを行い、そのまま大学のオープンキャンパス企画(神学部教員による模擬講義とイベント)に合流しました。その後、神学生スタッフによる信仰に関する短い話から質疑応答へと続き、最後は神学部チャペルで閉会礼拝を守り、参加者のために祈りをささげました。

夏のオープンキャンパス報告



8月6日(土)、7日(日)に西宮上ヶ原キャンパスで夏のオープンキャンパスを開催しました。昨年度のオープンキャンパスはコロナ禍の影響でオンラインでのイベント実施がメインでしたが、今年度は久々に対面でのイベント開催となり、当日は多くの受験生がキャンパスを訪れました。

神学部では橋本祐樹准教授が「宣教を神学する」(左写真) 浅野淳博教授が「古代地中海世界を歩こう」と題した模擬講義を実施したほか、土井健司教授が神学部チャペルにて「聖書とバツハと蓄音機」(右写真)、中道基夫教授がランパス記念礼拝堂にて「赤いウエディングドレスはダメですか?」と題した学部イベントを実施しました。各回30名近くの高校生が会場を訪れ、キリスト教に関するさまざまな講義や音楽等に触れながら熱心に教員らの話に耳を傾けていました。



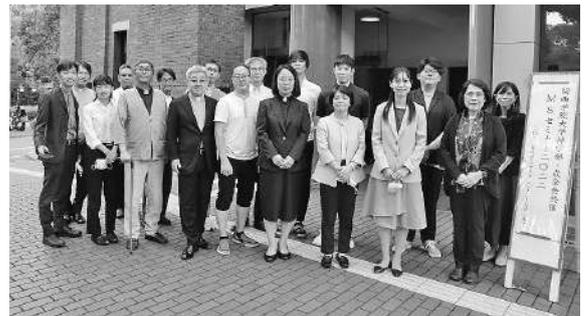
MSセミナー2022報告

MSセミナー企画・運営委員長 土井 健司 教授

8月23日(火)から25日(木)にかけて、同窓の教会担任教師を対象としたMSセミナーを実施しました。今回が5回目のセミナー開催となります。つまり第1回のときに5年目として参加した同窓教師が、10年目として参加するということであり、この教師たちの成長ぶりを目の当たりにすることができました。

会場は神戸栄光教会の地階集会室で、対面参加とZoomを使った同時双方向形式で実施しました。10年目参加者として井田博康(帯広)、小野輝(三瓶)、阪口新(多度津)、汐碓直美(奈良)、重岡奈津子(泉北梅)、さらに12年目の澁谷実季(毛呂)、11年目の貴田直樹(境南)、そして5年目として小豆真太郎(春日東)、発将貴(西福岡)、林智之(下松)、森美由紀(遠野)、安田典子(神和)、以上12名の参加者(敬称略)でした。

プログラムは、神学部の芦名定道教授の神学講演「宣教の現場から、宣教の現場へ」、牧会講演として山田謙先生(仙台五橋教会牧師)の「30年を振り返って」、また池上信也先生(犀川教会牧師)から「保育施設と教会に纏わる牧会四方山話」と題した話をいただきました。今回は二日目の午後すべてを、提出された各自の説教と牧会に関する協議の時間としたことが特徴でした。最終日に語られた各教師によるビジョンを聞き、日本の教会の未来に明るいものを感じました。



秋季学術講演会 「ブルックナーの宗教音楽」根岸 一美 大阪大学名誉教授

2022年10月20日 於：関西学院会館 レセプションホール

報告者：東 よしみ 准教授



10月20日(木)、大阪大学名誉教授の根岸一美氏をお迎えし、「ブルックナーの宗教音楽」と題した秋季学術講演会が行われました。根岸

先生はアントン・ブルックナー(1824-1896)の生涯を辿りながら、折々の時期に作曲された宗教音楽を、CDやご自身の演奏によって紹介されました。

1835年に本格的な音楽の勉強を始めたブルックナーは、1836年に音楽教師であった父を亡くし、聖フローリアン修道院に預けられます。現存するブルックナーの最初の作品は、1835-37年の間に書かれた《Pange lingua(褒めよ、舌よ)》です。音源がないこの曲は、根岸先生がピアノを弾いて歌っていただきました。次に紹介された曲は、母校であるフローリアンの国民学校の教師として務めていた1847年に作曲された3本のトロンボーンのための《エクアーレ》です。厳かな響きが印象的なこの曲は、亡くなった人を偲んで野外で演奏

されました。

1856年から1868年までブルックナーはリンツのオルガニストとなり、職業音楽家、作曲家として転身を果たします。続いて紹介された曲は、1868年に作曲された《Pange lingua(褒めよ、舌よ)》です。トマス・アクィナスの作とされるこの歌詞に、ブルックナーは何度も作曲をしました。さらに、ウィーンのゼヒターの元での音楽修行の修了を記念して1861年に作曲された《アヴェ・マリア》、調号を用いずに作曲された詩篇37篇《正しい者の口は》(1870年)、受難週のためのミサ曲《キリストは従順であられた》(1844年)を聴きました。最後に、1892年にウィーン国際音楽演劇博覧会の開幕のために作曲された《詩篇第150篇》を聴き、合唱とオーケストラによる壮麗な神への賛美に耳を傾けました。

演奏されることの少ないブルックナーの宗教音楽を聴き、ブルックナーの敬虔な心に触れる貴重な機会となりました。



from the Classroom

応用倫理とキリスト教 A

芦名 定道 教授



今年度秋学期の「応用倫理とキリスト教 A」の授業は、現在受講者10名によって進められています。この授業では、現代社会が直面している生命倫理の課題、たとえば、「脳死・臓器移植」「クローン問題など遺伝子工学の諸問題」「自殺」「安楽死」「インフォームドコンセント」「患者の尊厳」などの問題をめぐる、現代の応用倫理の取り組みについて、キリスト教思想の見地から考察を試みています。

授業は、これらの諸課題について講義が行われ、受講生との討論を交えながら進める予定ですが、これらの錯綜した問題に対してキリスト教思想からアプローチするためには、次の3点について準備が必要になります(討論で前提となる事柄についての講義です)。まず、キリスト教倫理の基本的内容について聖書を手がかりに議論を整理します(創造・知恵・歴史・終末をめぐる思想と倫理の問いとを結び付ける)。続いて、現代倫理学の基礎理論(徳倫理、義務論的倫理、功利主義)についてポイントを学びます。そして最後に、現代の科学的生命観(進化論や現代大きく進展しつつある生命科学の動向)や医療のあり方を概観すれば、準備の完了です(ここま

でが授業の前半)。
これらの予備知識を獲得した上で、先の生命倫理の諸課題にアプローチする。これが授業の後半であり、受講生の討論がどの程度スムーズにできるかがポイントです。本講義では、以上の手順で生命倫理の内容を学び、いのちをめぐる現代の問題についてキリスト教思想(キリスト教倫理学)の理解を深めることをめざします。受講者には、予習復習はもちろん、積極的な授業参加が期待されます。

2023年度 神学部・神学研究科入学試験ご案内

神学部・神学研究科入試日程

※各入試の最新情報及び詳細については以下のWEBサイトからご確認ください。
<https://www.kwansei.ac.jp/admissions/>

<お問い合わせ先> ■関西学院大学神学部 Tel.0798-54-6200

■関西学院大学入学センター Tel.0798-54-6135

■神学部

		出願期間	試験日
一般入試	全学部日程	<インターネット出願> 2023年 1月 4日(水)～1月16日(月) ～23時まで	2月 1日(水) 2月 2日(木)
	学部個別日程		2月 6日(月)
	共通テスト併用/英数日程	<出願書類郵送> 2023年 1月 4日(水)～1月16日(月) [消印有効]	2月 5日(日)
大学入学共通テストを利用する入試	1月出願	<インターネット出願> 2023年 1月 4日(水)～1月16日(月) ～23時まで <出願書類郵送> 2023年 1月 4日(水)～1月16日(月) [消印有効]	【大学入学共通テスト試験日】 1月14日(土) 1月15日(日)
	3月出願	<インターネット出願> 2023年 2月24日(金)～3月10日(金) ～15時まで <出願書類郵送> 2023年 2月24日(金)～3月10日(金) [消印有効]	

■神学研究科

<博士課程前期課程>

		出願期間	試験日
第2次	一般	2月 8日(水) }	2月24日(金)
	社会人		
	外国人留学生	2月15日(水)	

<博士課程後期課程>

		出願期間	試験日
後期課程	一般	2月 8日(水) }	2月24日(金) 2月25日(土)
	外国人留学生		
		2月15日(水)	

関西学院大学神学部

第24回キリスト教教育研究集会のご案内

関西学院大学神学部では、かねてから学校教育におけるキリスト教主義教育の重要性を認識して、その中心的役割を担う聖書科教師の育成に努めてまいりました。この研究集会は、今日の聖書科教師が直面している様々な課題を明確に自覚し、その解決の方法を具体的に作り上げていくことを目標としています。下記の要領で、第24回の研究集会を開催いたします。キリスト教教育を担当なさる多くの方が参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

- ◆講演 『キリスト教教育の意義と可能性』
芦名 定道 氏(関西学院大学神学部教授)
- ◆現状報告 大内 麻理 氏(立教女学院中学校・高等学校)
- ◆とき 2022年12月27日(火)10:00～15:30
- ◆ところ 関西学院高等部 静修室
- ◆申込締切日 12月5日(月)16時まで 神学部補佐室 Tel.0798-54-6207

関西学院大学神学部

第57回神学セミナーのご案内

今年の「神学セミナー」は、コロナ禍により急速に変化した看取りおよび葬儀のあり方について考えます。対面・オンライン併用で行いますので、より多くの方々のご参加をお待ちしています。

第57回 関西学院大学神学部神学セミナー

- ◆主 題 「キリスト教の看取り・送り」
- ◆日 時 2023年2月20日(月)9:30～17:30
- ◆場 所 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスF号館
(対面・オンライン併用)

主題講演：中道 基夫 氏(関西学院院長・神学部教授)
 現場報告：汐碓 直美 氏(日本基督教団奈良教会牧師)
 高見 晴彦 氏(株式会社シャローム代表取締役)
 神学講演：森本 典子 氏(神学部専任講師)



土井 健司 著

『教父学入門：ニカイア以前の教父たち』

(新教出版社、2022年9月)



イエスやその弟子たちの後、キリスト教にはどのような人びとがいて、活躍したのか。「教父」と呼ばれるこの人びとを考察するのが「教父学」という学問です。今回その入門書ができました。2世紀、3世紀の教父たち、クレメンテ、ユスティノス、オリゲネスといった古代教会を形成した人びとの生涯、書物、思想について、残された資料を駆使して分かりやすく解き明かします。さまざまなエピソードを交えた点もおもしろさを引き立てます。

芦名 定道 ほか編

『キリスト教文化事典』

(丸善出版、2022年8月)



本書は、丸善出版から刊行されている『…文化事典』の一冊として企画されました。キリスト教の教義や歴史、そして聖書という基礎的事項と、キリスト教文化(文学、音楽、絵画)の具体的な諸テーマを詳細に解説し、現代社会におけるキリスト教文化の動向までを扱っています。項目執筆には、神学部の浅野淳博、岩野祐介、加納和寛に参加いただきました。

Azuma, Yoshimi. "A Japanese Ecofeminist Reading of John 1:14." Pages 109-122 in *Reading the New Testament in the Manifold Contexts of a Globalized World: Exegetical Perspectives*. Edited by Eve-Marie Becker, Jens Herzer, Angela Standhartinger, and Florian Wilk. Neutestamentliche Entwürfe zur Theologie, vol. 32. Tübingen: A. Francke, 2022.



本書は、各国で新約聖書が、どのような社会の問題との関わりの中で研究され、教えられているかを扱っています。著者の論考は、日本社会の問題として、ジェンダー不平等と環境問題を指摘した上で、新約聖書学は、エコフェミニスト聖書解釈の視点をを用いることで、これらの問題の解決に貢献できると指摘します。ヨハネ1:14の釈義を通して、受肉の意義はロゴスが人間だけでなくすべての生命体や地球との連帯を示したことにであると主張しています。

博士論文を出版しました

堀 忠 著

『レブラと奇跡：脱神話化と脱医学化に向けて』

(新教出版社、2022年7月)



小児科医としての病院勤務の後(途中神戸・元町で映画館の開設にかかわったり、寄り道もありつつ)、2013年から神学研究科で土井健司先生のご指導のもと、キリスト教思想史を研究させていただいてきました。『レブラと奇跡』は学位論文をベースにしたものです。より広くキリスト教と病者とのかわりの歴史に関心のある方々にお目にとめてもらえればとの思いから、カバーをレンブラントの『善きサマリア人』にしてみました。

2022年度春学期(4月~9月) 神学部日誌

- 4/ 1 大学院入学式
- 4/ 2 大学入学式
- 4/ 8 春学期授業開始
始業礼拝「希望の説明としての神学」(土井 健司 神学部長)
始業講演「内村鑑三の弟子、斎藤宗次郎
— 日本キリスト史における信徒のはたらき」
(岩野 祐介 教授)
- 4/20 GPA制度による成績優秀者顕彰礼拝・山内奨学金授与礼拝
- 4/27 神学研究会(柳澤 田実 准教授)
「認知人類学者ターニャ・ラーマンによるキリスト教福音派研究」
- 5/17 2022年度神学部・神学研究科人権研修会
題目:「ヤングケアラー問題に関して」
講師:濱島 淑恵 氏
(大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科 教授)
- 5/25 神学研究会『神學研究』第69号合評会
発題:岩崎 大悟 氏、評者:井上 智 助教
発題:木原 桂二 氏、評者:東 よしみ 准教授
- 6/ 1 FD研修会(学部・研究科)
- 6/ 8 神学部・神学研究科学術奨励基金各種奨学金授与礼拝
神学部チャペルコンサート
- 6/22 神学研究会(浅野 淳博 教授)
「『死と命のメタファ:キリスト教贖罪論とその批判への
聖書学的応答』—批評と応答—」
- 6/29 教会担任教師志望学生懇談会
- 7/ 6 神学部チャペルコンサート
- 7/21 春学期授業終了
- 7/27 神学研究会(加納 和寛 教授)
「聖霊理解と聖霊論:過去と現状」
- 7/27 修士論文中間発表(大学院博士課程前期)
- 7/27~8/3 春学期定期試験
- 8/ 6 第39回関学ユースキャンプ(※1日のみの実施)
- 8/6・7 オープンキャンパス
- 8/23~25 MSセミナー2022
- 8/10~9/19 夏季休業
- 9/ 3 教育懇談会(西宮上ヶ原キャンパス)
- 9/ 7 大学院入試博士課程前期課程(一次)実施日
- 9/16 春学期大学卒業式・大学院学位記授与式
- 9/20 秋学期授業開始
- 9/24 神学基礎テスト

■卒業生のみなさまへ

◆ホームページのリンクに関するお願い

神学部のホームページでは、主に学生や多数の本学関係者に教会活動について幅広く知ってもらうため、本学部・研究科のOB・OGの方々が牧師や伝道師として在籍する教会名や教会ホームページへのリンク先を紹介しております。

神学部 > 進路・資格 > OB・OGの在籍する教会・施設

(<https://www.kwansei.ac.jp/tr/church/>)

貴教会においてホームページを開設していらっしゃる場合は、ぜひ神学部までお電話でご連絡ください。また貴教会から神学部ホームページへのリンクも歓迎いたします。

■リンク先URL (https://www.kwansei.ac.jp/s_theology)

◆住所・勤務先変更ご通知のお願い

近年、神学部からの卒業生の皆様宛郵便物(神学部報・後援会だより・講演会開催案内等)が転居先不明で返送されることがあります。ご転居の際には、ぜひ神学部事務室までご一報ください。

※ご提供いただいた個人情報を第三者に開示することはいたしません。